

ピープルズ・ホープ・ジャパン誕生

私達は、このたび米国に本部を置く「Project HOPE」から独立し、「ピープルズ・ホープ・ジャパン」として、新しく活動することとなりました。

1997年「プロジェクトHOPEジャパン」としてスタート以来9年余、Project HOPEの高邁な理念と使命に全面的に賛同し、皆様のご支援を頂きながら主としてアジア地域において支援活動を展開して参りました。

このような経過の中で、日本独自のプログラムの実施について、Project HOPE方針と進め方に違いが生じてきたため、話し合いの結果、組織を円満独立することになりました。

今回の独立は、日本独自のプログラムの立案・実施についての「自主性を確保」することにより、支援者の皆様のご期待および日本政府等の公的補助

金の獲得に合ったプログラムを実施することが主たる目的であります。

独立したとはいえ、今後もProject HOPEとの協力関係は維持し、可能な場合は協働プログラムの実施も考えており、これまで私達が賛同してきた理念と使命は引続き共有します。

今後は今まで以上に「プログラム企画能力と実施」および「財政基盤の強化と管理体制の整備」を行います。現地若手の行動力とシニアの英知…この絶妙なバランスにたって新しいPHJを更に飛躍させたいと思います。

皆様の更なるご支援をお願い申し上げます。



理事長 甲谷勝人

巻頭言 / 前途を祝して



プロジェクト HOPE ジャパン
理事長・医学博士
ジョン・P・ハウ 三世

親愛なる甲谷理事長殿

Project HOPEを代表して、この度の新組織「ピープルズ・ホープ・ジャパン」の公式な船出を心からお祝い申し上げます。新組織の前身であるプロジェクトHOPEジャパンは、設立以来今日に至るまで、世界にまたがるProject HOPE組織の一員として『世界の全ての人々に健康を』という我々の理念の強力な推進者であり、重要なパートナーとして多大な貢献をして来られました。私は今日までプロジェクトHOPEジャパンがProject HOPEと共有してきた使命と価値観、そして理念こそが両者が見事な関係を維持し続けることが出来た最大の要因であると考えており、

ピープルズ・ホープ・ジャパンがこれを将来に亘って引き続きProject HOPEと共有される方針であることを高く評価し、又、感謝するものであります。

私は、ピープルズ・ホープ・ジャパンが有能で、かつ強力なリーダーシップの下、今後更に成長し発展を遂げてゆくこと、そして世界の隅々に至るまで、あらゆる人々やコミュニティーの健康改善のために立派に貢献して行かれることを固く信じております。来たる2008年にProject HOPEは創立50周年を祝うこととなりますが、現在バスラ子供病院の建設を通じて、イラクの子供達の健康と希望を取り戻すためProject HOPEとピープルズ・ホープ・ジャパンの両者が連携し協働しているという事実に代表されるように、今後更に数多くの両者間の協働・協調の機会が創り出されるように大いに期待しております。

ピープルズ・ホープ・ジャパンがより良い世界を建設するために貢献すると言う固い決意に対して深く敬意を表すると共に、この度の新組織発足に当たって心からお祝詞を申し上げます。

子宮頸がん予防教育

タイでの子宮頸がん予防教育事業は開始4年を経過し、1月31日、事業関係者150名が事業を実施しているスファンブリ県立病院に集結して、今までの事業総括を



行い成果の確認と今後の方針を確認しました。

事業開始時の子宮頸がん受診率はわずか2%

成果報告をする県立診療センター
マミーさん

でしたが38%に増加し、その結果受診女性7万人の内487人に異常が、また84人に前がん状態が見つかり、いずれも適切な治療を受けて命を救うことが出来ました。診療スタッフは7万件の検診と治療経験を積むことも出来ました。検診時の異常発見者数は事業が進むに従い減少しています。チャヤプーンとスファンブリ2県での事業成果を他の地域にも広げたいと願っています。

(大谷 暁子)

スマトラ大津波災害復興支援…この1年を振り返って…

2004年12月26日、史上最悪の災害をもたらした地震・津波の最大の被災地となったアチェ州でのこの1年…。

被災直後の2005年1月、バンダアチェとその周辺へインドネシア保健省調査団の一員として、被災地視察した時は、あまりにもひどい惨状と、肉親を失った悲しみ・財産をなくし希望を失い途方に暮れる人々を目の前にして正直、「どのような支援が最善か?」「一刻も早く目に見える形での支援をしたいとのあせりもあり」精神的・心理的に苦しみました。また被災現地はGAM(アチェ独立武装集団)による危険で不安定な治安状態でもあり、被災地に入るのも非常に困難で、満足な調査も出来ない状況でした。

そんな状況が一転したのは、GAMがインドネシア政府との和平協定に同意し調印した8月以降で、治安が安定し始めると人々にも少しずつですが笑顔が戻ってきました。

2005年1月の訪問時に2人の子供が行方不明で悲しみを隠せなかった保健局の医師ユン先生に、8月に再会したときには「生まれ代わりの子供がいまお腹の中にいるの…」と笑顔で語ってくれました。「少子化が進む日本とは違うな～」と感じたのは「自分たちの子孫を残そう」というアチェの人々の強い意志と、苦難を何とかして自力で乗り越えようとする人々の前向きな姿勢にも驚きました。現在アチェはベビーブームになっています。そんな折、アチェにて支援を行っている情報をもとに助



ラムレ村の助産所
建設開始
(2005年11月)

開所式



産所の建設支援を行うことになり、災害発生からちょうど1年後の2005年12月26日、日本の皆様からの貴重な支援金にて完成しました。レビタ助産師は「HOPEクリニック」と呼んでいます。クリニック開所式時に村長さんより「良質の木材を使っており、良い大工にも恵まれ立派な建物が出来た」と大変喜ばれました。

また、クリニックの助産師レビタさんからは「開所2ヶ月間で、早くも30人の赤ちゃんが無事出産をしました」と報告がありました。

和平協定調印後のアチェでは、夜間や休日の外出が自由にできるようになり、町は活気に満ちてきています。

私は、「10万人を超える犠牲者は決して無にならなかった。犠牲と引き換えにアチェの人々が手に入れたもの…それは自由」と強く感じました。

そしてアチェの海原は非常に穏やかで美しさを取り戻しています。

(伊藤 美夏)



屋根の上から未だに撤去されてない漁船
(2005年8月)



ユン先生

カンボジア報告:母子保健(診療所運営能力強化)

カンボジアコンポントム州の中心部から未舗装道を15キロほど入った所にPHJがサポートしている4つの診療所の一つコンポンスバイ診療所があります。まわりには畑が広がり、高床式の家が点在する農村風景が広がります。診療所は、カンボジアでは、住民に一番近い公共の保健医療サービス機関で、簡単な一般診療、出産介助、予防接種、保健教育活動等を行っています。このコンポンスバイ診療所もその1つで、チーフのホンチンさん以下、看護師、助産師、薬剤師の5名のスタッフで、地元の10ヶ村の住民13,000人余をカバーしています。

2月13日、コンポンスバイ診療所で、診療所業務を振り返るワークショップを開きました。このワークショップは、PHJの母子保健プログラムが掲げる「診療所運営能力強化」を目指す活動の一環です。ワークショップでは、診療所スタッフが主役となり、PHJスタッフは議論をサポートする進行役です。議論は、診療所での業務やサービス、村での保健教育活動や予防接種サービスといった地域住民との協力関係にも及びました。

コンポンスバイ診療所でのワークショップ終了後、診療所チーフのホンチンさんに話を聞いたところ「課題が全て解決できたわけではないが、課題を診療所スタッフで話し

合うことができたのはよかった。診療所のサービスをきちんと行うこと、地域住民との協力関係を作っていくことは大切だ。」とのことでした。そして最後には、「PHJの皆さん、このようなワークショップをサポートしてくれて有難うございます」とのお礼の言葉を頂きました。

PHJでは、このワークショップサポートの他、コンポンスバイ診療所のサービスに必要な血圧計(大人用と子供用)や体重計の寄贈、妊産婦健診室整備支援を実施しました。

(石関、大村)



パキスタン募金で山村に仮設住宅資材を届けます。

前号に続くご報告です。皆様からの募金3,214,686円は現地に展開するNGOを通じて仮設住宅資材提供に使用させて頂きます。

具体的には、NGO「日本国際ボランティアセンター」(JVC)と現地NGO「SPADO」が従来からの信頼関係をもとに編成した協同チームの支援計画に資金参加します。

地震の中心地ムザハラバードに近いバタモリという標高1600Mの山村が対象です。

パキスタン地震に対する国際支援は、国連アピール額(637億円)の三分の二に止まり、家を失った人280万人、特に高地に住む人々には雨露をしのぎ、寒さに耐える資材が充分廻って来ません。

協同チームは地震発生直後から緊急支援を行なっていますが、今回の支援は仮設住宅資材約600世帯分(組立は家族労働)、ほかにトイレ、簡易給水施設等です。

PHJは皆様の募金でこの内150世帯分の屋根材(トタン、各戸平均12枚)を分担します。

今後機会を見て、現地レポートをお届けします。

ありがとうございました。

(大河内)



テントに乗せて冷気を遮断

2005年末募金の最終報告

昨年の年末募金の総額は4,389,658円となりました。

これはカレンダー募金と職場でお願いした袋募金の総計です。パキスタン募金と重なったにもかかわらず、例年にもまさる募金を頂き、事務局一同心から御礼申し上げます。用途は前号でご報告の通り、我々の基本事業(タイ、インドネシア、カンボジアの母子健康)の貴重

な資金とさせて頂きます。

使用済みプリペイドカード、切手につきましては全国的に集めて資金化している団体(ジョイセフ)に送付し、役立てて頂きます。併せてご報告と御礼を申し上げます。

(大河内)

会員のひろば



「患者さんと向き合って」
日本メドトロニック(株)(法人会員)
マネジャー 岩間真澄

心臓ペースメーカーをご存じでしょうか。私の会社はいわゆる「植込み型」の高度医療機器を製造・販売しています。広報に携わる私は、患者さんとお付き合いする機会が増えています。最近、日欧の患者さんたちとお会いし「患者」という言葉の印象とはまったく違う、はつらつとした姿に触れる機会がありました。

昨年9月、スイス・ジュネーブで催された患者セミナー。欧州各国や米国16カ国から約50人、パーキンソン病やジストニアなどの難治性疾病を抱える患者とその家族が集いました。参加者には、疾病に加え患者会の運営という共通の課題もあります。

「企業からうまく寄付を得るためにはどうすればいいか」「製薬会社や医療機器会社と上手に連携するには」…。講師が繰り出すテーマは、メーカーとして思わず身を乗り出すようなものもあります。講義の合間には、患者団体から国別の報告もありました。

休憩時間は、自分の飲む薬を見せ合う患者さん、介護犬を連れた患者さんに話しかける人たち。さまざま

な交歓風景が見られ、患者会の活動状況に加えお互いの人生を語り合う姿に、私も最初の緊張はどこへやら、会話に巻き込まれていました。

今年1月は東京で、1型糖尿病を抱える患者会の総会が催されました。生活習慣病といわれる2型と異なり、1型は原因不明です。毎日インスリン摂取を余儀なくされ、幼児期に発生する例も少なくない。そんな人々が集まった会で最初に登場した患者の大学生、大村詠一さんは、世界エアロビック選手権大会を連覇した演技を披露しました。また阪神タイガースに入団が決まったばかりの投手、岩田稔さんはビデオ出演でしたが「病気になったからこそ、さまざまな人たちと出会うことができた」と話しました。

病気を抱えると誰でも気持ちがふさがちです。しかし同じ悩みを抱える人たちと交流し、自分自身も希望ある明日へ踏み出そうという患者さんも少なくありません。そんな方々と出会い、いつのまにか元気を分けていただいた気分になる自分に気付くのです。

こうした体験を通して、ホープパートナー教育事業でタイにいる20人の子供の患者さんを支援している法人の広報担当としても「健康と希望を」というテーマに熱い思いを馳せています。

リサイクルCTスキャナがバリ病院に据付完了

インドネシア・バリ州東部地域(住民113万人)では交通事故、農作業中の木からの落下、脳障害等による不慮の事故で病院へ搬送中に命を落したり重い後遺症が残ったりするケースが多く発生していましたが、地元のギアーニア病院にCTスキャナが設置されたことで住民たちの長年の夢が実現しました。

このリサイクルCT事業はプロジェクトHOPEインドネシア事務所が病院側のCTルーム改築、CTの到着から据付、現地教育までを、東京本部は外務省補助金及びインドネシア医師の日本研修をそれぞれ担当しましたが、ご支援いただきました多くの関係先の皆様に報告と御礼を申し上げます。(横尾)



据付完了したCTの前で
(日本研修を受けたチャンドラ先生と、アテ先生)

発行：ピープルズ・ホープ・ジャパン / 発行責任者：須見 彰 / 編集人：三木 巖 / 発行日：2006年4月3日
〒180-8750 東京都武蔵野市中町2-9-32 TEL：0422-52-5507 FAX：0422-52-7035
E-mail：info@ph-japan.org インターネットホームページ：http://www.ph-japan.org

今日からあなたも地球人 個人会員・ホープパートナー会員募集中!

FAX 0422-52-7035

ピープルズ・ホープ・ジャパン 行

個人会員申込書 会費3,000円/年・口× 口 = 円/年

ホープパートナー会員申込書 会費3,000円/月

の中にチェック☑を入れて下さい。

ふりがな

氏名

電話

— —

自宅住所 〒

勤務先

電話

— —

お申込みは、郵送、FAX、ホームページなど、どのような方法でも、結構です。後程送金方法を連絡させていただきます。